

文部時報

第五百五十八號

目次

卷頭 (明治天皇御製三首).....一

歐米の社會教育視察より歸りて.....
文部省社會教育局成人教育課長兼庶務課長 松尾長造.....二

航海練習船を中心として.....
航海練習所囑託東京高等商船學校教授 小門和之助.....八

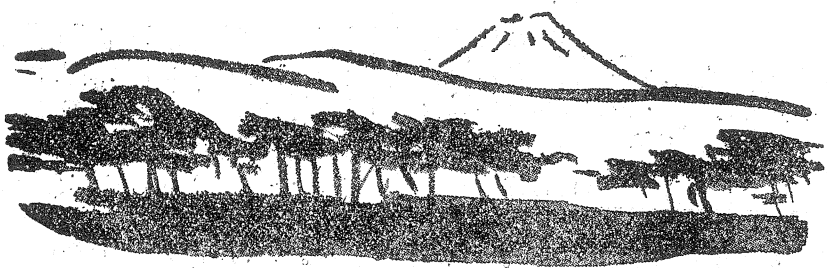
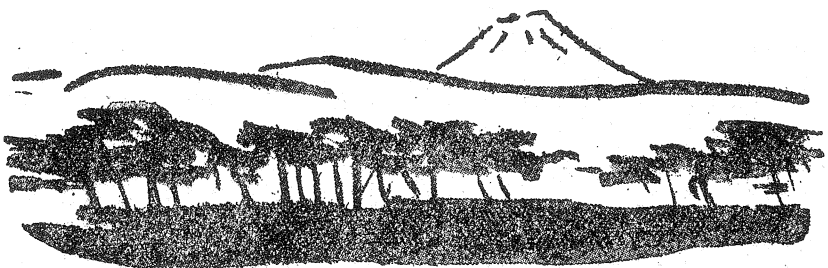
英國セントラル・スクールに於ける

一般教育及數學教育について.....
文部省在外研究員 佐藤良一郎.....一七

第十一回實業學校卒業程度檢定試驗問題

並答案講評 (承前).....
文部省實業學務局.....二二

ポストン日本古美術展覽會に輸出せる國寶及



重要美術品等に就て.....
文部省宗教局保存課.....三一

復命書

昭和十年度文部省視學委員復命書抄

公民科.....
文部省視學委員東京文理科大學助教授 綿貫哲雄.....三七

國語漢文.....
文部省視學委員浦和高等學校教授 小野機太郎.....四二

文部省直轄學校の特色

□ 廣島高等師範學校の特色.....
廣島高等師範學校長 塚原政次.....四四

□ 富山藥學專門學校の特色.....
富山藥學專門學校長 高橋隆造.....四六

□ 自由教育十五年.....
橫濱高等工業學校.....四七

□ 東京高等工藝學校の特色.....
東京高等工藝學校長 安田祿造.....五〇

□ 和歌山高等商業學校.....
和歌山高等商業學校長 花田大五郎.....五二

ボストン日本古美術展覽會に輸出せる 國寶及重要美術品等に就て

文部省宗教局保存課

今回國寶及重要美術品等認定物件がアメリカ合衆國へ一時貸出しの爲に多數輸出せらるゝことになりました。此等は孰も我が國の歴史上又は美術上最も重要な價值ある美術品のみであります。

此度米國への輸出の目的は彼の有名なるハーヴァード大學創立三百年祭記念の爲にボストン市美術館が特に米國議會並に大統領協賛の下に今秋九、十兩月間に亙り日本古美術展覽會を開催して我が國固有の文化を紹介し、併せて世界文化の上にも貢獻せんとする企なのであります。故に我が多數の所藏家達も喜んで之れに賛成し、競つて此の需めに應じました次第であります。然れば其の効果が香に國際文化の交換のみならず、延いては我が日本の固有文化の宣揚の上にも亦一段と有意義なることは申すまでもありません。

古社寺保存法布かれて四十年、國寶保存法制定されて七年、又重要美術品等の保存に關する法律の公布せられて茲に四年、斯くも多數の國寶、重要美術品等が一時貸出しの爲に輸出せらるゝことになりましたことは今回が初めてであります。

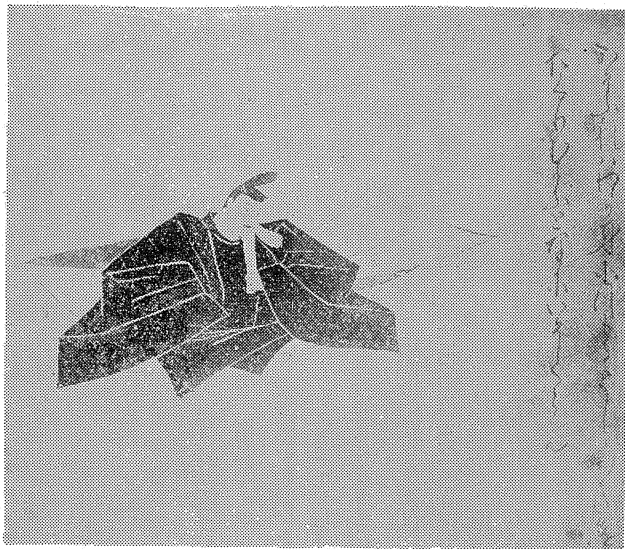
國寶及重要美術品等は原則としては其の輸出（諸外國）移出（朝鮮臺灣樺太南洋諸島）を禁止せられて居るのでありますが、特に主務大臣の許可を受けたるときは此の限りに在らずとなつてゐます。但し此の主務大臣の許可を得て、國寶及重要美術品等の認定物件が一時貸出しの爲に輸出せらるゝこととなつた例は極く最近のことであり、其の一は昨年（九月十五日より本年六月末まで）英國皇帝戴冠二十五周年記念國際支那美術展覽會出品の爲に重要美術品等認定物件九點（十二箇）が初めて許可を受けて、御物、東京帝室博物館藏其の他の美術品と共に輸出せ

られました。又本年は(六月二十一日より十月末日まで)國寶、エ
ラスムス像(栃木縣足利郡吾妻村龍光院藏)が和蘭國 ロッテルダ
ム市に於けるエラスムス歿後四百年
祭出陳の爲に輸出せられてゐます。
此度の輸出は其の第三回目に相當す
るものでありますが、其の數に於て
は遙かに前二者を凌駕してゐます。

今回出品の内容は 御物二點、高
松宮家御所藏品一點、東京帝室博物
館所藏品七點を始め總數は百一點百
三十七箇の多きに達してゐます。其
の中既に國寶指定のもの二點、重要
美術品等認定済のもの九點、今回新
に重要美術品等に認定の上、輸出許
可せられたるもの十六點あります。
是れ等は七月十四日横濱港解纜の國
際汽船葛城丸に積込まれ、一路、パナ
マ運河を経てポストン市に運ばれ、展覽會終了後は本年十二月
末に歸還することになつてゐます。

次に新に重要美術品等に認定せられました繪畫十五點、彫刻

一點に就ての略説を掲げて參考に供しませう。
絹本着色拵紳邸宅圖 一幅



十三歌仙(兼盛) 大坂 土橋嘉衛

東京 安田善次郎氏藏
この畫は大内裏圖と傳へられてゐ
るが然るや否や明らかでない。がた
ゞこの圖だけで完結したものであるな
くもつと大きい畫面の一部分であつ
たらうと想像される。鎌倉末期の大
和繪の繊細な畫風のものである。
紙本着色過去現在因果經殘闕 一卷
東京 前山 久吉氏藏
既に國寶に指定されてゐる上品蓮
臺寺所藏因果經の續一紙分である。
經文は下段に書きそれに應ずる畫を
上段に畫いたものである。奈良朝時
代の製作で、繪入經卷としては古い
珍しいものの一である。

紙本着色花鳥圖 六曲屏 傳雪舟筆 一雙

雪舟が晩年を送つた石州益田の益田男爵家に傳はつたもの

で、傳によると文明十五年に雪舟が益田家の御祝の時に畫いて
送つたものであると云ふ。落款等なく雪舟の筆になりしものや
否やは明らかでないが、兎に角雪舟筆と傳へらるゝ多數ある花
鳥圖屏風の中で、注目に値する作である。

紙本着色花鳥圖 松花堂ノ贊アリ 六曲屏 一雙

伯爵 渡邊昭氏藏

花鳥を緻密に寫生風に
畫いたもので松花堂の書
いた古歌の贊がある。畫
の筆者は明らかでない。
贊を書いた松花堂は名は
昭乘、江戸時代初期の書
家として第一流の人であ
る。

絹本着色麥穗菜花圖酒井抱一筆 二幅

男爵 岩崎小彌太氏藏

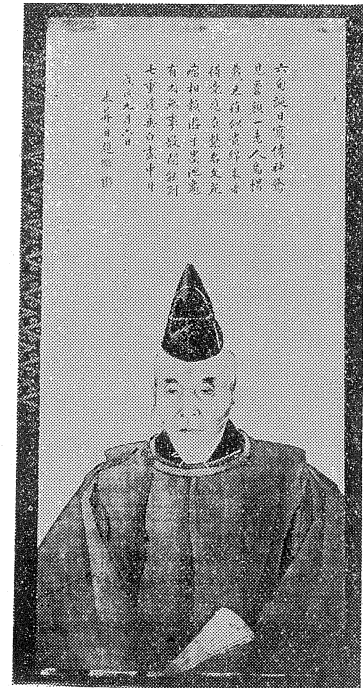
一幅に麥穗を、他幅に菜花を淡彩で畫き、夫々飛鳥一羽を配
した頗る氣の利いたものである。筆者酒井抱一は播州姫路の城
主酒井忠以の弟、風雅を愛し、畫は光琳に私淑した。
紙本着色繫馬圖六曲屏 一雙

ポストン日本古美術展覽會に輸出せる國寶及重要美術品等に就て

戦國時代を中心として武人の間に馬を愛する事が盛んで従つ
て厩に馬を繫いだ圖が嗜好に投じ多數畫かれた。これは桃山時
代前後の製作で、筆者は狩野派の畫家と覺しく、賑やかな面白
い圖様のものである。

紙本金地著色犬追物圖 六曲屏 一雙

東京 根津嘉一郎氏藏



市川米庵像(波邊嶺山筆) 横濱 村下 仙

江戸時代初期の犬追物の
風俗を畫いたもので、當時
の風俗を知る江戸初期の
繪畫として面白いものであ
る。恐らく狩野派の畫家の
手になつたものであらう。

絹本着色普賢十羅刹圖 一幅

同 氏藏

藤原時代以後盛んになつた普賢菩薩信仰のあらはれとしてこ
の種の畫は當時相當多數畫かれた。これは普賢には濃彩の上に
截金を用ゐる、繊細な感あるもので製作年代は恐らく鎌倉中期を
下らぬであらう。十羅刹の唐様である事も古風な趣がある。

絹本着色釋迦經歷圖 一幅

表題には釋迦經歷圖とあるが然るや否や明らかでないが、何か經文の物語を畫いた經典の變相畫であらう事は想像される。鎌倉時代の製作でこの種の畫の大作として注目に價するものである。

紙本着色山水圖祥啓筆

一幅

同 氏藏

筆者祥啓は足利時代建長寺の書記で普通啓書記と云はれ、畫を藝阿彌に學んだと傳へられる。この畫は小幅ではあるが祥啓の代表的な山水畫として貴重すべきである。

紙本着色周茂叔圖傳小栗宗丹筆 一幅

同 氏藏

周茂叔は蓮を愛した人で、この畫も周茂叔が池に舟を泛べて蓮を眺めてゐる圖であるが、寧ろ山水畫として取り扱はるべき



山水圖 (傳周文) 岩崎小彌太 爵男

ものである。小栗宗丹筆と傳へられてゐるが勿論明らかでない。兎に角足利時代の一派の畫家の筆になつた山水畫である。

紙本着色風俗圖 三幅

同 氏藏

岩佐又兵衛筆と傳へられてゐるが恐らくそうではなからう。印もあるが筆者は明らかでない。婦女、若衆等の立姿を畫いたもので江戸時代初期の風俗畫として一種のものである。

紙本着色山水圖 狩野探幽筆 六曲屏 一雙

一雙

東京 西脇健治氏藏 筆者狩野探幽は云ふ迄もなく江戸初期の著名な畫家である。これは多數ある探幽の山水畫中で大作でもあり又佳作である。

紙本着色靈昭女圖 岳翁筆 了卷ノ贊アリ 一幅

東京 保阪 潤治氏藏

靈昭女は觀音の化身と云はれ、これを畫く事はつまり觀音信仰のあらはれで、足利時代の畫家の好んで畫いた題材である。

筆者岳翁の傳記は明らかでない。山水畫の遺作は屢々見るが人物畫は珍らしいものである。上に五山の僧として著名な了菴桂悟の贊がある。

絹本着色一字金輪曼荼羅圖 一幅

東京 益田、孝氏藏

藤原時代の我國の佛畫は普通纖麗なものであるが、これは限取を多く用ゐた西域風のもので、藤原時代以降の佛畫中で珍らしいものである。

木造持國天立像 一軀

同 氏藏

興福寺に傳來した四天王の一軀で廣目天のみ寺に残り他の三軀は明治年中に民間に出た。藤原後期の四天王の代表的なものでこの持國天を除き他の三軀は既に國寶に指定されてゐる。

以上は今同新に重要美術品として認定せられたもので此他に國寶二點、重要美術品九點がある。即ち國寶としては 紙本着色長谷雄草紙 一卷



紀長谷雄が朱雀門の樓上に鬼と雙六を打つてこれに勝ち、美女を獲たが鬼との約束を違へた爲美女は水となつて流れ去り、

鬼はその違約を責めて長谷雄を害せんとしたが長谷雄が北野天神を念じた靈驗によつてこれを免れたといふ物語を畫いたものである。畫は鎌倉時代末期の大和繪である。

紙本着色三十六歌仙切(兼盛) 佐竹家傳來 一幅

京都 土橋嘉兵衛氏藏

佐竹侯爵家舊藏三十六歌仙繪二卷の斷簡で、畫は藤原信實、書は後京極良經の筆と傳へらるゝものである。その畫風を見るに正に鎌倉時代初期の作である。世に歌仙繪の遺品は尠くないが中でもこれは製作年代古くして且つ優秀の作といふべきである。

次に既に認定せる重要美術品九點と

認定年月順に左に略説する。 紙本着色山水圖傳周文筆 一幅 男爵 岩崎小彌太氏藏

侯爵 細川 護立氏藏

ボストン日本古美術展覽會に輸出せる國寶及重要美術品等に就て

この畫周文筆と傳へられるが、筆致の特色は寧ろ岳翁といはれるものに近い。然し岳翁よりも古致があり、繊秀な筆致を以て畫かれ、この種のものでは他に隔絶するすぐれた作品である。紙本墨畫紅梅鳩圖宮本武藏筆 一幅 侯爵 細川護立氏藏

筆者宮本武藏は例の有名な武人であるが、同時に畫技に於ても傑れた作品を遺してゐる。これは得意の減筆描を以て墨一色で紅梅に鳩のとまつた情景をあらはしたものである。紙本著色舟遊圖傳藤原長隆筆 一幅 大阪 戸田彌七氏藏

住吉物語繪卷の殘闕として世に傳へられてゐるものは數點あり、これもその一片である。住吉物語とすれば物語の主人公が姫をつれて住吉から都へ歸る舟中の光景を畫いたものと思はれるが、明らかでない。筆者は藤原長隆と傳へられるがこれ亦不明である。何れにせよ畫は鎌倉末期の大和繪中での優作である。絹本著色春鷺起鴉圖岡田半江筆 一幅 東京 遠山元一氏藏

岡田半江は江戸時代末期大阪に於ける文人畫の泰斗で殊に米點を得意とした。この畫も自賛に「襄陽米夫子天下山水師云々」とある様に宋の米芾の得意としたと云はるゝ米點を以て畫いた秀潤の氣に満ちた半江の代表作である。

紙本墨畫烏鷺圖長谷川等伯筆 六曲屏 一雙 男爵 團 伊能氏藏

筆者等伯は本圖の落款に「自雪舟五代長谷川法眼等伯筆」とある様に、桃山時代に雪舟の傳統をうけて一派をなし長谷川派の祖となり、狩野派等と拮抗して桃山畫壇一方の雄たりし人であ

る。この畫は等伯の特色をよく見得る面白いものである。絹本著色稚兒大師像 一幅 同 氏藏

稚兒大師像は稚兒形の弘法大師像で大師信仰として現れた宗教的肖像畫の一である。本圖は鎌倉時代以後に於ける稚兒大師像の代表的な作品である。

紙本墨畫山水圖藏丘(岳翁)筆 一幅 東京 岡崎正也氏藏

筆者岳翁は前記の如くその傳記が明らかでないがその作品と傳へられるものは相當に多く、足利時代の水墨畫家としては一種の風格を有する特殊な作家である。岳翁の畫には印のあるものはあるが、これはその名と思はれる藏丘の款のある珍しいもので岳翁研究上の一の礎石となるものである。

絹本著色市河米菴渡邊華山筆 米菴ノ戊戌九月六日ノ題語アリ 一幅 横濱 下村 仙氏藏

筆者渡邊華山については今更喋々する迄もあるまい。華山は西洋の寫實風の畫法を取入れて肖像畫に新領域を開いた親友市河米菴を畫けるこの畫の如きその一例である。米菴は幕末の文人であり書家たりし人で、この畫にも自分の肖像の上に得意の書を以て題語を記してゐる。

紙本著色鷺織圖傳狩野元信筆 六曲屏 一雙 侯爵 井上三郎氏藏

狩野派の典型的な畫で構圖筆致等のすぐれたものである。筆者は元信であるや否やは明らかでないが、元信筆と傳へられるのも強ち理由なき事ではない。

文部時報刊行計畫摘要

一目的 本省行政ニ關スル法令並ニ諸般ノ施設事項ヲ周知セシムルト共ニ所管ノ行政及教育機關等ノ聯絡提携ニ便ナラシムルヲ以テ目的トス

二内容 本時報登載事項ノ大要左ノ如シ

詔	勅	訓	訓	法	任免、陞叙、敘位、敘勳	講演、講話、談話	人
書	令	令	示	令	表	研究	事
勅	關	告	指	令	質	調	公
		示	令	示	疑	査	告
			告	告	應	統	寫
			省	告	答	計	真
			法	律	彰		
			令		復		
			諭		命		
					書		
					及		
					報		
					告		
					書		

三編纂 文部時報編纂ノ爲編纂委員長並編纂委員若干名ヲ置ク
 編纂委員長ハ文書課長ヲ以テ之ニ充テ編纂委員ハ文書課員中ヨリ之ヲ命ズ

必要アルトキハ審査委員ノ意見ヲ求ムルコトアルベシ
 資料蒐集ノ爲省内各局課ニ文部時報報告委員ヲ置ク

四發行 本時報ハ菊版、每號約六十四頁、定價金貳拾錢ヲ標準トシ每月三回一ノ日ヲ發行期日トス

部	金	貳拾錢	送料共
一ヶ月	金	六拾錢	送料共
六ヶ月	金	參圓六拾錢	送料共
一ケ年	金	七圓貳拾錢	送料共

●臨時増刊又は増大號發行の節は別に代金申受けます。
 ●御注文は總て前金に願ひます前金切れの場合には送本いたしません
 ●廣告料は一頁五拾圓、二分ノ一頁參拾圓、四分ノ一頁拾八圓とす
 ●掲載頁數は壹部毎に拾參頁を越ゆることを得ず
 ●右文部省の御指定に依つたものとす

昭和十一年八月九日印刷納本
 昭和十一年八月十一日發行 (第五五八號)
 東京市麹町區土手三番町十三番地
 發行者 大谷仁兵衛
 印刷者 大庭庭公平
 印刷所 行政學會印刷所第二工場
 電話 牛込二九九六番

發行所 東京市京橋區銀座西七丁目一番地
 帝國地方行政學會
 電話 銀座六六〇、六六一、六六二、六六三番
 振替 貯金口座東京十三番